



中国日本商会

今どきコラムー121

中国雑談

中国ではどの業界が一番儲かっているか

国家統計局は 8 月 27 日に今年 1～7 月の一定規模以上の工業企業（年間の主要業務所得が 2000 万元以上の工業企業を指す）の営業利益を発表した。今年 1～7 月、41 の工業種のうち、**利益率が最も高かった 5 つの業界は、石油・天然ガス採掘、医薬品製造、石炭採掘・洗選、鉄系金属採掘・選鉱、非鉄金属採掘・選鉱**で、大口商品の値上がりが川上企業に極めて有利に働いたことが分かった。

三大主要種別から見ると、1～7 月の採鉱業の営業利益率は 17.68% で、昨年同期比で 8.40 ポイント上昇し、2019 年 7 月と比べると 4.65 ポイント上昇している。製造業の利益率は 6.58% で、2020 年と 2019 年の同期に比べ、それぞれ 1.35 ポイントと 1.27 ポイント上昇している。電力、熱エネルギー、ガス、水生産・供給業の利益率は 5.65% で、2020 年と 2019 年に比べると下がり、それぞれ 0.49 ポイントと 0.59 ポイントの減少であった。

大口商品価格の値上がりの影響を受け、採鉱業は利益率も利益率改善幅も、製造業と電力、熱エネルギー、ガス、水生産・供給業を超えている。計 41 の工業種のうち、利益率トップ 5 の業界は、医薬品製造業のほかはすべて採鉱業で、中でも石油・天然ガス業界の利益率が最も高く、今年に入ってから 7 カ月は 23.68% で、前年同期比 16.59 ポイント上昇した。

今年上半期、世界経済が再び動き出したため、国際原油価格が激しく値上がりし、天然ガスの価格はさらに激しく上がり、ここ 10 年の最高レベルに達した。中国石油化工、中国石油、中国海洋石油という三大国有石油企業は上半期に計 1255 億 1800 万の純利潤を叩き出し、日平均で約 6 億 9300 万元という利潤で、ここ 7 年の同期で最高水準となった。中国が



2030年までにカーボンピークアウト、2060年までにカーボンニュートラルという二つの目標実現を推進するにつれ、天然ガスはさらに大きな発展チャンスを迎えるだろうと市場は予測している。

採鉱業に属する7つの業界（石油・天然ガス・石炭・鉄系金属・非鉄金属・非金属・その他採鉱業）のうち、その他採鉱業の営業利益率だけがわずかに下がり、今年の7カ月は4.17%で、2019年同期に比べると0.05ポイント減少している。

採鉱業・製造業と比べると、電力、熱エネルギー、ガス、水生産・供給業の利益率は最も低く、2020年と2019年の同期と比べても下がっている。さらに細かく見てみると、主に電力・熱エネルギー生産・供給業が足を引っ張っているのが分かる。カーボンピークアウトとカーボンニュートラル目標が掲げられ、エコ化モデルチェンジがキーワードとなり、省エネや排出削減が短期的に電力・熱エネルギー企業のコストを押し上げたのが、この二大業界の利益率が下がった一つの重要な要因であるかもしれない。

日本企業（中国）研究院 執行院長

chenyan5931@163.com